

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100302		
法人名	社会福祉法人慈光福祉会		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	山口県大島郡周防大島町久賀5377-1		
自己評価作成日	平成28年7月25日	評価結果市町受理日	平成28年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海も山もあり自然環境に恵まれている。安心・安全にそしてホームをご自分の居場所として楽しく生き生きと暮らして頂けるように職員で意見を出し合い支援している。また、季節を感じていただけるようにホーム内には飾りを工夫したり、花壇には花を植えて、散歩や日向ぼっこの時には楽しんで頂いている。特養との併設のメリットを活かし、行事等については共同参加している。また、1年に1回、家族会を行っており家族との交流をもっている。隣接地には山中クリニックがあり週2回の回診も含め医療面でも充実して安心でいられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の弾かれるキーボードの演奏に合わせてみんなで歌を歌われたり、来訪されるボランティアと一緒にゆる体操をされる他、好きなテレビ番組の視聴や食事の盛り付け、テーブル拭き、トレイ拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、外出や外食、季節行事への参加など、利用者のできることやしたいことを把握され、楽しみごとや活躍できる場面をつくれ、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援に取り組まれています。毎月、利用者の写真が載せてある事業所だよりに添えて、利用者を担当されている職員が近況報告を書かれて、家族に送付しておられ、利用者の事業所での様子を伝えられて、家族から意見が言いやすいように工夫されています。家族交流会で利用者、職員、家族と一緒に戸外に出かけられて外食し交流しておられるなど、家族との関係づくりに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、理念共有を図り、実践につなげている。	事業所独自の理念をつくり、事業所の運営方針と合わせて事業所内に掲示し、職員会議や連絡帳で確認して理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は散歩時に地域の人と会話を交わしたりしている。ボランティア(ゆる体操)の来訪がある他、併設の特別養護老人ホームに来訪した保育園児の遊戯や歌の見学、法人の納涼祭に参加している。中学生の体験学習や施設見学などを受け入れている。	法人が自治会に加入し、年2回発行している地域向け事業所だよりを運営推進会議のメンバーや町に配布している。利用者は地域の敬老会に参加している。法人の併設施設で開催している新年会、納涼会、誕生会などの行事に参加し、来訪しているボランティアによるハーモニカ、ウクレレ、ハンドベル、大正琴の演奏や舞踊、よさこい踊りなどの他、3ヶ所の保育園児による遊戯や歌などを見学し、交流している。中学生の体験学習や高校生や教員の実習を受け入れている。利用者は散歩の途中であった地域の人と挨拶を交わしたり、野菜やみかんをもらったりしている。野菜は職員が漬物にして、もらった地域の人に返したり、食事の時に提供している。27年度の自己評価で、地域との交流を目標達成計画に立て、地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては活かしていない		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を職員に説明し、職員は自己評価するための書類に項目ごとに分担して記入し、副主任がまとめたものを管理者と職員が話し合い作成している	管理者は評価の意義について職員に説明し、常勤職員に自己評価をするための書類を2枚ずつ分担して配布し、記入してもらった後、副主任がまとめている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立てているが、具体的な改善までには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義と項目の理解</li> <li>・評価を活かした取り組み</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。事業の実績や取り組み行事報告、避難訓練や研修についてより詳しく説明し多くの意見があり、改善について検討しているなど意見をサービス向上に活かすようにしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や事業所の取り組みについて報告し、質疑応答や話し合いをしている。4月より食事が配食に変わったことで、手づくりの食事の方が良かったので続けてほしいという意見があり、職員間で話し合っているが、意見を活かすまでには至っていない。地域からの参加メンバーは1名のみである。	・地域メンバーの拡大 ・会議を活かす取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当課とは運営推進会議時や電話の他、介護保険申請時に相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者とは直接出向いたり電話やFAXで報告や情報交換している他、相談し助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員(町職員)とは、運営推進会議時に情報交換し、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修で身体拘束について学び、拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しない方針ではあるが現在では、安全のため、ほとんど施錠している。	職員は法人内研修で学び、身体拘束について理解しており、抑制や拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠しているが、掃き出し窓があり出ることにはできる。利用者が外に出たい時は、職員と一緒に外へ出て支援している。スピーチロックは職員同士で注意し合っている。	・鍵をかけないケアの検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が防止に努めている。苑内研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、制度を活用する機会はない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は利用者や家族等の不安や疑問点を聞くようにし、十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受け付け体制や処理手続きについて家族に説明している。第三者委員を設置し、意見箱を玄関に設けている。電話や面会時、年一回の戸外家族会で食事しながら利用者と家族、職員の交流を通して意見や提案を聞く機会を設けている。	相談、苦情の受け付け体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。事業所内に意見箱を設置している。電話や面会時、年1回戸外に出かけて外食をする家族交流会の時などに家族からの相談を受けたり意見や要望を聞いている。毎月、利用者の写真を載せた事業所だよりに添えて、利用者を担当している職員が近況報告を書いて家族に送付して、利用者の様子を伝え、意見が言いやすいように工夫している。ケアに関する要望に対してはその都度職員と話し合って対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回の職員会議で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でも聞く機会を設けている。現状にあわせ勤務体制を変更するなど職員の意見を運営に反映させている。	管理者は、月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。利用者の状態や職員の現状に合わせて勤務体制の変更をしているなど、職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は他業務で多忙なため勤務状況の把握は出来ていない。管理者がすべてにおいて把握している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供している。研修終了後は資料をコピーし、供覧できるようにしている。法人内研修は年2回(5月、11月)併設の特別養護老人ホームと合同でテーマ別を実施し、夜勤帯以外の全職員が受講している	外部研修は、法人で把握し研修内容に合わせて必要な職員に勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告書と資料を職員が閲覧できるようにして共有している。法人研修は年2回、2時間程度あり、各部署から決められたテーマでの発表と自由発表がある。夜勤者以外の全員が参加し、欠席者は資料で自己研修している。新人職員は、外部である新人研修を受講した後、事業所内で副主任の指導を受け働きながら学んでいる。内部研修は実施していない。	・内部研修実施の検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム協会の研修や岩柳地区の交流会があるが、日々の業務の為出席できる回数が少ない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からも話を聞き、困っている事や不安な事などに耳を傾け、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話を聞き、困っていること、不安な事や要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族としっかり話しをして、一番必要としている支援を見極めている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、話をしたり、いろいろな習慣を教わったりしながら、暮らしを共にする家族のような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加したり、面会にこられた時には様子を話している。月に一回近況報告を送って家族との絆を大切に、共に本人を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、家族の来訪がある他、家族の協力を得て、外出、外泊など、馴染みのひとや場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の面会、親戚の人や知人、友人の来訪がある他、年賀状や電話での交流を支援している。お大師参りや地域の敬老会に出かけている他、家族の協力を得て馴染みの店での外食や法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食堂で過ごすときは自由に座ってもらい、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を絶つことなく、経過を見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートの活用や日常の会話の中で本人の言葉を聞き取って記録し、一人一人の思いの把握に努めている。困難な場合は本人の表情や動作から汲み取ったり、家族から聞き取り、本人本位に検討している。	入居時に家族から聞き取った基本情報のアセスメントシートの活用や、日々の関わりの中で利用者の言葉や様子を個人記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにセンター方式を取り入れ、家族にも記入をお願いし、その方がこれまでの様な生活を送ってきたかがわかるようにしている。また本人との日常の会話の中からこれまでの生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を把握し毎朝入所者の表情や状態を察し可能な力を発揮できるように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者生活状況、引継ぎ時事項の記録、日別評価表、独自のモニタリング表を作成し、利用者を担当する職員と計画作成担当者を中心に、3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催して話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3ヶ月に1回の見直しをしている。また、状態に変化等が見られたらその都度見直しをしている。	毎月、職員会議で利用者の状態について話し合っている。家族の意向や医師、看護師、理学療法士などの意見を参考にして、利用者を担当している職員や計画作成担当者を中心にして話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。またその情報をふまえて職員会議で介護計画の見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにその都度対応できるように心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆる体操の指導に毎月ボランティアで来てもらっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関をかかりつけ医としている。定期的に回診があり、家族の協力を得て他科受診の支援をしている。併設の特別養護老人ホームの看護師の協力を得ている他、緊急時や夜間はかかりつけ医の24時間体制があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、週2回の訪問診療がある。日常的に併設の特別養護老人ホームの看護職の協力を得ている他、緊急時には協力医療機関と連携を図って対応しているなど、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新たに外傷が見つかったり、体調の変化が見られたりしたときはすぐに隣接の特養の看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院側に利用者の状態を説明している。また、その後はお見舞いに行ったりして回復の状態を知り、退院支援に結びつけている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所でできる対応について家族に説明し、重度化対応についての同意書を得ている。実際に重度化した場合は本人や家族、かかりつけ医と話し合い、法人の医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの移設などの支援をしている。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、かかりつけ医に相談し、家族や関係者と話し合い、入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に一人ひとりの発生時の様子を記録し、職員で話し合い改善策を検討し事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	事例が発生した場合、その場にいた職員がヒヤリハット、事故報告書に記録し、すぐに改善したり、その後職員で話し合った改善措置を主任が記入し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えての応急手当や初期対応についての定期的な訓練は実施していない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している。ホームで自家発電機を備蓄管理している。運営推進会議で地域との協力について話しあっているが協力体制を築くまでには至っていない。	法人の併設施設と合同で昼夜間の火災を想定した避難訓練を消防機器会社の協力を得て実施している。災害時での地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は法人内研修で人格の尊重とプライバシーについて理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について、職員は理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は保管して取り扱いに注意している。守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話をあまりされない入所者に対しては、こちらが積極的に話しかけ、本人の希望を少しでも聞くことが出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われることが多く、職員側の都合を優先してしまうことがあるが、入所者の訴えに出来るだけ早く対応できるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床後に、鏡を用意し整髪、おしぼりを用意して顔を拭いてもらっている。 入浴後には、化粧水や保湿をおこない身だしなみができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特別養護老人ホームからの配食を利用している。利用者には盛り付けを手伝ってもらい、利用者と職員は同じテーブルを囲んで職員は利用者一人ひとりのペースを大切に食事の支援をしている。喫茶行事、年1回家族会の協力を得て外食するなど、食べることが楽しみなものになるように支援している。	食事は、ご飯を事業所で炊いている他は、法人の併設施設からの配食を利用している。利用者は、食事を取りに行ったり、盛り付けやテーブル拭き、トレイ拭き、お茶を入れる、汁物をよそうなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は円形の大きなテーブルを囲んで会話をしたり、職員は食事介助をしながら一緒に食事をしている。新年会や毎月の誕生会など法人施設での行事に参加して食事をしたり、家族交流会や日帰り旅行で外食をしているなど、食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立による食事により栄養のバランスをとっている。さらに食事、お茶の時間に充分水分をとってもらい、あまり飲まれない方には、飲みやすくなる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをしたり、歯ブラシを手渡したり、その人にあわせた口腔ケアを行なっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。また、可能な方は日中、下着とパットで対応し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めにしたり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防をしているが、薬に頼っている人が多い。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後から毎日入浴しており、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。難しい利用者には、言葉かけや時間帯を工夫してタイミングを見ながら、無理強いせず個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日、13時から16時ごろまで可能で、利用者の体調や希望に合わせて入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせて足浴やシャワー浴、清拭での対応をしている。入浴したくない人人には、時間をずらしたり言葉かけに工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、睡眠に乱れのある人は原因究明、対応の検討を行い、支援している。また、日中散歩やレク活動を通じて夜間の安眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、個々に応じた服薬の支援をしている。症状の変化については主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた個々の力を活かし活躍できる場面作りをしている(洗濯たたみ・洗濯干し・テーブル拭き・トレー拭き・おしぼり巻き・)併設の特別養護老人ホームの慰問見学の参加、誕生会でプレゼントを受け取る、季節行事など楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	テレビ視聴(のど自慢、オリンピックなどのスポーツ番組、動物や子どもが出ている番組)、雑誌を読んだりチラシ広告を見る、町広報を見る、利用者の弾くキーボードに合わせて歌を歌う、ぬり絵、切り絵、利用者の描いたデッサン画を併設施設の行事に合わせて展示する、書道、ドリル(漢字、計算)、新聞紙でゴミ袋づくり、チラシ広告でゴミ包みづくり、ゆる体操、輪投げ、手遊び、花笠音頭を踊る、盛り付け、テーブル拭き、トレイ拭き、お茶入れ、汁物をよそう、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、おしぼり巻き、季節行事の参加、併設施設の行事に参加、併設施設に来訪しているボランティアの楽器演奏や踊りなどの見学、外出や外食など、利用者のできることやしたいことを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそって戸外に出かけられていないが、ホーム周辺の散歩、併設の特別養護老人ホームと合同で花見、家族会の親睦会(グリーンステイながうら)などで出かけられるように支援はおこなっている。	事業所周辺の散歩やゴミ出し、地域の敬老会への参加、花見、家族交流会や日帰り旅行での外食、家族の協力を得ての外出など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいため個々に所持できない。家族より預かり、金庫に保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話や手紙に応える形でやりとりがスムーズにいくように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾り、壁には行事の写真や利用者の作品を飾り、季節感を採り入れている。円形のテーブルを囲んで食事をしたり、団欒の場となっているほか畳の間にはテレビが置いてあり、洗濯ものをたたんだりして利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。	リビングや玄関に季節の花を活けたり、壁面に季節に合わせた作品や行事、外出時の写真などを飾り、季節感を採り入れている。利用者全員と職員も一緒に席に着ける大きな円形のテーブルがあり、レクリエーションやおしゃべり、テレビを観たり食事をするなどして楽しんでいる。畳の間があり、リハビリに利用したり洗濯物をたたんだりしている。温度、湿度明るさに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の横に居間があり座ったり寝転んだりくつろげるようになっているがほとんど円形のテーブルで過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具やクッションなどを持ち込み、家族写真や自分の作品を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	寝具、小物入れ、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、造花や家族の写真、自分の作品などを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設内部はバリアフリー、手すりがつけてあり、安全に生活が送れるようになっている。またトイレの場所がわかるように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム太陽の家

作成日: 平成 28 年 12 月 14 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	研修を発表する機会が少ない。	研修で得た事を全職員で共有し実践していき介護の質の向上を目指す。	GH職員会議で報告し、勉強会を行ったり、グループ討議を行う。	1年
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施ができていない。	職員全員が応急手当や初期対応ができる様にする。	応急手当や初期対応の勉強会を定期的に行う	1年
3	4	評価を活かした取り組みができていない。	全職員が評価の意義と項目の理解をし、評価を活かした取り組みを行う。	白紙を全職員に配布し、全員が全ての自己評価に取り組む。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。